

令和6年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立五代小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和6年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

令和6年4月18日(木)

3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年（国語、算数、理科、質問調査）

中学校 第2学年（国語、社会、数学、理科、英語、質問調査）

4 本校の実施状況

第4学年	国語	106人	算数	106人	理科	106人
第5学年	国語	99人	算数	99人	理科	99人

5 留意事項

(1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。

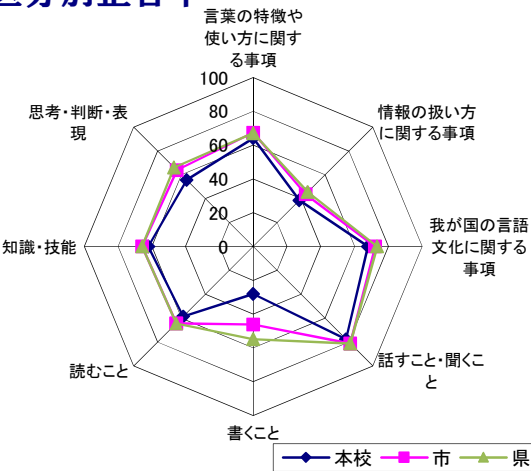
(2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。

(3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立五代小学校 第4学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方にに関する事項	64.1	67.4	67.1
	情報の扱い方にに関する事項	38.7	43.8	45.7
	我が国の言語文化にに関する事項	67.9	72.1	73.4
	話すこと・聞くこと	77.6	81.2	81.2
	書くこと	28.1	46.2	54.9
	読むこと	58.6	64.3	64.5
観点	知識・技能	62.1	65.7	65.7
	思考・判断・表現	55.7	64.0	66.3



★指導の工夫と改善

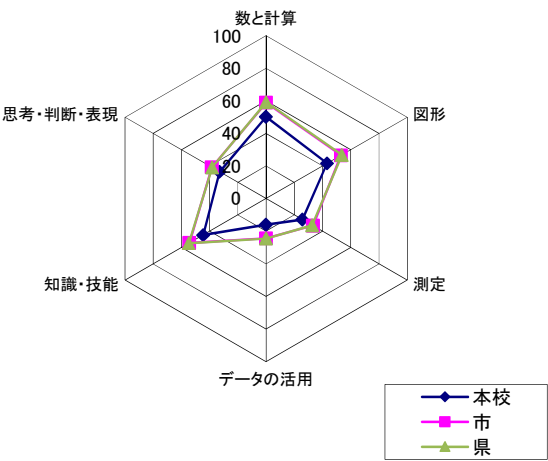
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方にに関する事項	平均正答率は、県・市の平均値を下回っている。 ○漢字を書く問題では、県の正答率を5.7ポイント上回り72.6%だった。 ●ローマ字の読み方について答える問題では、県の正答率よりも12ポイント以上低い。	・ローマ字が定着するように、朝の学習や家庭学習で繰り返し練習する。また、タブレットを使った学習をするときには、ローマ字表の活用や読み方を確認するなどして、重点的に指導する。 ・日常的に文を書くときには、既習済みの漢字を用いて書けるように指導する。
情報の扱い方にに関する事項	平均正答率は、県・市の平均値を下回っている。 ●国語辞典の使い方の理解については、県の正答率よりも7.0ポイント低い。	・分からない語句が出てきた場合は、日常的に辞書で調べる習慣をつけさせる。国語辞典を使う機会を増やし、語彙を広げられるようにする。
我が国の言語文化にに関する事項	平均正答率は、県・市の平均値を下回っている。 ●へんとつくりを組み合わせる問題では、県の正答率よりも5.5ポイント低い。	・漢字を学習する際に、へんやつくりなど部首についての指導も行うことで、漢字の理解をさらに深められるようにする。
話すこと・聞くこと	平均正答率は、県・市の平均値を下回っている。 ○司会者の話し方の工夫を捉える設問では、県正答率を4.4ポイント上回った。 ●相手に伝わるように、自分の考えを、理由を挙げながら話すことができるかの設問は、県の正答率よりも12.5ポイント低い。	・学校生活での話す・聞く場面において、それぞれの共通点や相違点に気付かせたり、話を整理しながら相手の話を最後まで聞くことができるよう指導する。 ・自分の考えを伝える際には、その根拠を明確にし、筋道を立てて話すことができるよう指導をする。相手意識をもたせ、どのように話したらより伝わりやすいかを考えながら話せるような支援をしていく。
書くこと	平均正答率は、県・市の平均値を下回っている。 ●指定された長さで文章を書く設問は、県の正答率よりも27.2ポイント低い。 ●自分の考えを明確にして文章を書くことができるかの設問では、県正答率より27.1ポイント低かった。	・文章を書く際には、自分が書きたいことの内容をはっきりさせて、「初め」、「中」、「終わり」の順で内容を整理した書き方ができるよう指導する。 ・まず自分の考えをしっかりとめ、その根拠を明確にしながら、文章に表せるような指導をする。
読むこと	平均正答率は、県・市の平均値を下回っている。 ○場面の様子について、叙述も基に捉える設問は、県の正答率よりも12.3ポイント高い。 ●情報と情報の関係について理解し、中心となる語や文を見つけて要約する設問は、県の平均正答率よりも20.9ポイント低い。	・段落ごとに書かれている要点を押さえたり、あらすじを確認させたりするなど、内容を捉えながら読む習慣が付くよう指導する。 ・朝の読書の時間などを活用し、文章を読むことの楽しさを味わわせながら、読み取る力の育成につなげる。

宇都宮市立五代小学校 第4学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	50.2	58.9	59.2
	図形	43.1	53.0	53.7
	測定	25.7	33.1	32.6
	データの活用	16.0	24.4	24.6
観点	知識・技能	44.6	54.3	54.7
	思考・判断・表現	33.0	38.5	38.3



★指導の工夫と改善

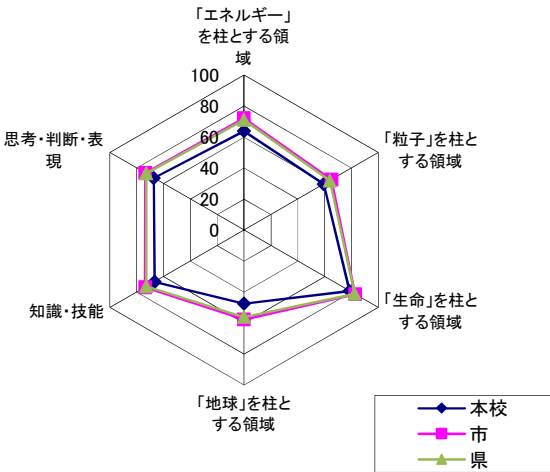
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	平均正答率は、県・市の平均値より下回る。 ○口を使ったかけ算の式に合った文章を選ぶ問題の正答率は、市や県よりもやや高い。 ●分数の大きさを表す正しい大きさの問題では県よりも20ポイント以上低い。 ●分数の数直線上での表し方や小数についてのしくみや表し方、整数－小数第一位の計算については、県よりも10ポイント以上低い。	・分数や小数の大きさや仕組みについて、数直線や具体物を用いて理解を深め、繰り返し練習問題に取り組ませながら知識の定着が図れるようにする。 ・計算力に個人差がある。基礎基本的な問題を確実に正解することができるよう、計算ドリルやAドリルなどの課題に繰り返し取り組ませるようにする。
図形	平均正答率は、県・市の平均値より下回る。 ●半径と直径において理解し、球の性質を利用し長さを求める問題の正答率は、県より16.1ポイント低い。 ●円の性質を利用して作正三角形を作図する問題は、県の正答率より12.6ポイント低い。	・円と球の学習について、実際にボールを用意して操作させたり、タブレット端末を使ってシミュレーションができるような体験型学習を行ったりすることで、視覚的・感覚的に理解できるようにする。さらに、円や球などの性質を見だし、図形の持つ性質が日常生活でどのように役立てられているか考察できるようにする。コンパスの使い方についても、シミュレーションを基に正しい使い方を確認し、繰り返し練習しながら定着が図れるようにする。
測定	平均正答率は、県・市の平均値より下回る。 ○前後の時刻や時間の経過から、途中の時間を求める問題では今年度も下回っているものの差がわずかである。 ●はかりの目盛りを読み取り、重さを答える問題においては県よりも17.6ポイントも下回る。	・量感を身に付けることができるよう、実物を提示したり実際に測ったりする活動を取り入れる。 ・私たちの身の回りでは、様々な単位が用いられていることを確認し、さらにどんなものに何の単位が使われているのか、児童の興味関心を基に、日常生活と関連させることができるよう指導する。
データの活用	平均正答率は、県・市の平均値より下回る。 ●棒グラフを読み取り、2番目に多いものを求める問題の正答率は、県よりも17.4ポイント低い。 ●目盛りの付け方が異なる2つのグラフで、棒グラフの棒の長さで数を比べられない訳を説明する問題の正答率は県より6.4ポイント低い。	・表やグラフを正しく作成したり、読み取ったりするなどの基礎基本を定着させることができるよう、繰り返し指導する。 ・表やグラフを用いることの意味を理解し、それらを考察し、特徴や傾向を捉え表現することができるよう、考えや理由を言語化する機会を意図的に設ける。

宇都宮市立五代小学校 第4学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	「エネルギー」を柱とする領域	63.8	72.1	71.0
	「粒子」を柱とする領域	59.4	65.2	63.9
	「生命」を柱とする領域	78.6	82.8	82.4
	「地球」を柱とする領域	47.5	57.7	56.2
観点	知識・技能	66.7	73.8	72.8
	思考・判断・表現	67.2	73.7	72.8



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
「エネルギー」を柱とする領域	平均正答率は、県・市の平均値を下回っている。 ●音の性質についての問題の正答率は、県の平均正答率よりも10ポイント以上低く、課題が見られる。 ●日光を集めたときの明るさとあたたかさについての問題では、県の平均正答率よりも8.8ポイント低い。	・実験を行う単位については、今後もしっかりと準備し、予想、結果、考察の学習過程を丁寧に指導していく。 ・実験結果を利用し、同じような事象を推測する場面を取り入れ、推測の根拠を示しながら説明する活動などを取り入れて指導していく。
「粒子」を柱とする領域	平均正答率は、県・市の平均値を下回っている。 ●同じ体積でもものの種類によって重さが違うことについて表と関連付けて考える問題では、県の平均正答率よりも5.2ポイント低い。	・実験を行う単位については児童の興味・関心も高いようで、正答率も低くない傾向にあるため、今後もしっかりと準備し、丁寧に実験に取り組ませていく。
「生命」を柱とする領域	平均正答率は、県・市の平均値を下回っている。 ○植物の体のつくりや育ち方についての問題の正答率は、県の平均正答率とほぼ同じであった。 ●昆虫の体のつくりの違いを捉える問題では、県の平均正答率より12.9ポイント低い。	・身近な自然の観察について、植物や昆虫などへの児童の興味・関心を、スケッチや文章で表す活動に生かしたい。その際、どうしてそのように考えたのかなど、自分の考えやその理由が文章で正しく表現できるようにしていく。
「地球」を柱とする領域	平均正答率は、県・市の平均値を下回っている。 ●方位磁石の正しい使い方を選ぶ問題では、県の平均正答率よりも11.6ポイント低い。 ●かげと太陽の位置についてあてはまる内容を選ぶ設問では、県の平均正答率よりも8.2ポイント低い。	・実験結果を利用し、同じような事象を予想、推測したり、説明したりすることには、苦手意識があるため、実験では考察に時間をかけて取り組むようにする。 ・方位磁石の使い方については、十分に実験技能が身に付けられなかったことが考えられる。グループ等で実験をする際には、役割分担を明確にしたり使い方を別途確認したりするなどして技能の習熟を図る。

宇都宮市立五代小学校 第4学年 児童質問調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「家で、テストでまちがえた問題について勉強をしている。」「学校の宿題の量はちょうどよいと思う。」という2つの設問において、共に肯定的回答率が県の割合を上回っている。また、「本やインターネットなどを利用して、勉強に関するじょうほうを得ている。」「学習して身に付けたことは、しょう来の仕事や生活の中で役に立つと思う。」という設問においても、肯定的回答率が県の割合を上回っている。学習に対する意欲をもち、わからないことをそのままにしないという学習習慣が身に付きつつあると言える。今後も、家庭学習を含め、意欲をもって学習に取り組んでいけるよう、支援していきたい。

○「授業の中で、目標(めあて・ねらい)がしめされている。」「授業では、自分の考えを発表する機会があたえられている。」の設問も、肯定的回答率が県の割合を上回っている。「授業の最後に、学習したことをふり返る活動をよく行っている。」については、県と同等であった。このことから、毎日の授業の中で、目標が明示され、考えを発表し、学習したことを振り返るといった授業の形態がしっかり行われていると言える。今後も続けていきたい。

○「算数の学習は好きですか。」「算数の学習は、しょう来のために大切だと思いますか。」「算数の授業で問題のとき方や考え方が分かるようにノートに書いている。」という設問においても、肯定的回答率が県の割合を上回っている。特に「算数の授業で問題のとき方や考え方が分かるようにノートに書いている。」については、県よりも5.8ポイント上回っている。これらは、以前、学校全体で算数の学習について取り組んだ成果が残っているとみられる。引き続き、授業の導入や展開の工夫を行っていきたい。

○「1か月に、何さつくらい本を読みますか(教科書や参考書、まんがやざっしはのぞく)。」「の設問では、5冊以上よむ割合は県よりも10.1ポイント上回っている。ただ、0冊と答えた割合が県より3.4ポイント高い。興味のもてそうな本の紹介など、読書指導にも力を入れていきたい。

●「家で勉強するときに、だいたい同じ時こくに取り組むようにしている。」「早ね、早起きを心がけている。」という設問において、共に県の肯定回答割合を7ポイント以上下回っており、家庭での生活習慣が定着しきれていない様子がうかがえる。児童への意識付けとともに、家庭への協力をお願いしたい。

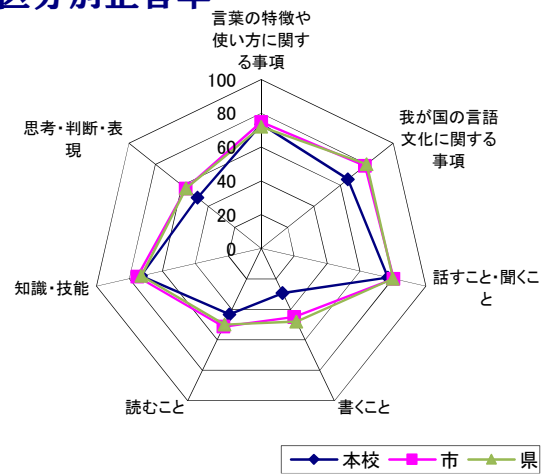
●「学習して身に付けたことは、将来の仕事や生活の中で役に立つと思う」の肯定回答率が95.4%と高い数値にも関わらず、「むずかしい問題にであうと、よりやる気が出る」という児童の肯定的割合は57.1%にとどまっている。このことから、学習の有効性は感じているが、「できない」と感じると諦めやすいことがうかがえる。そのため、できることから少しずつハードルを上げる、スモールステップの手順を踏まえた授業を考え、児童が分かる喜びを感じ、粘り強く問題に取り組む姿勢を育成したい。

●「国語の学習は好きですか。」「漢字の読み方や言葉の意味が分からないときは、辞書を使って調べている。」という2つの設問において、共に肯定的回答率がそれぞれ12ポイント以上県の割合を下回っている。国語に対する苦手意識がかなりうかがえる。今年度から、学校研究課題として、教科を国語にすることとし、語彙を広げることから取り組むこととする。

宇都宮市立五代小学校 第5学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方にに関する事項	73.6	74.8	72.0
	我が国の言語文化に関する事項	65.7	78.6	79.9
	話すこと・聞くこと	77.0	80.4	80.0
	書くこと	29.3	45.1	48.0
	読むこと	43.3	51.3	50.0
観点	知識・技能	72.9	75.2	72.8
	思考・判断・表現	48.2	57.0	57.0



★指導の工夫と改善

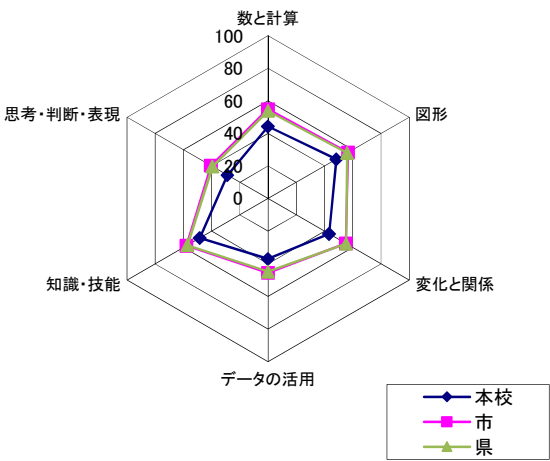
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方にに関する事項	平均正答率は、県の平均値よりやや高いが市の平均値より低い。 ○第4学年配当漢字の読みや書きに関しては、県の平均値をほぼ上回っているか平均値に近い。 ●「熟語の漢字の組み合わせの種類が同じものを選ぶ」設問では、市や県の平均値より6ポイント下回る。	・既習漢字が定着するよう、日頃から漢字の学習に取り組む機会を設けるようにし、指導をする際は、熟語や使い方などを意識するよう声掛けを行う。 ・言葉の特徴や使い方を意識させるために、文章を読む際、どの文節が主語、述語、修飾語に当たるのかを確認し、四角で囲むなどして、視覚的にも捉えられるように活動に取り入れる。
情報の扱い方にに関する事項		
我が国の言語文化に関する事項	平均正答率は、市・県と比べて大きく下回っている。 ●慣用句の意味を理解して、自分の表現に用いることができるかどうかをみる設問では、市平均正答率は12.9ポイント、県平均正答率は14.2ポイントと下回っている。	・定期的なことわざの意味を調べたり、覚えたことわざを場面を想定して例文に書いたりする活動を取り入れる。
話すこと・聞くこと	平均正答率は、市・県と比べてやや下回っている。 ○話し手が伝えたいことの中心を捉えることができるかどうかをみる設問では、県正答率とほぼ同じである ●話し合いの目的を確認し、意見の共通点や相違点に着目しながら、自分の考えをまとめることができるかどうかをみる設問では、市や県の正答率を6.8%程度下回っている。	・話の内容の中心を意識させて話を聞いたり、文章を要約する活動を取り入れ、相手が一番伝えたいことが捉えられるよう指導していく。 ・日頃から自分と相手の考えを共有する機会を設ける。
書くこと	平均正答率は、市・県と比べて大きく下回っている。 ●指定された長さで文章を書くことができるかの設問では、県平均正答率を20ポイント下回り、37.4%だった。 ●段落の役割について理解し、2段階構成で文章を書くことができるかどうかをみる設問では、県平均正答率を19.2ポイント下回り、26.3%だった。	・文章の中で重要だと思う箇所に線を引くなど他の文と差別化を図り、段落などの構成を考え、適切に読み取ったことを相手に伝わりやすい文章にまとめることができるよう指導する。 ・書くことに苦手意識をもつ児童が安心して自分の考えたことを記述できるようにするために、普段から「書く」場面を意図的に設ける。
読むこと	平均正答率は、市・県と比べて大きく下回っている。 ●物語文の登場人物の気持ちや性格について、具体的に想像する設問では、県平均正答率を下回っている。	・文章を読む際には、各段落に何が書かれているのか要点を押さえながら読むような指導をしていく。 ・文章全体を通して、各場面の出来事と登場人物の気持ちを関連付けて読み取らせるようにする。 ・語彙力や読解力の向上のため、日々読書の習慣づけを図る。

宇都宮市立五代小学校 第5学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	44.3	54.9	53.7
	図形	48.3	56.6	56.1
	変化と関係	43.2	55.1	55.2
	データの活用	37.0	45.5	44.8
観点	知識・技能	48.4	57.8	57.2
	思考・判断・表現	28.9	40.6	39.5



★指導の工夫と改善

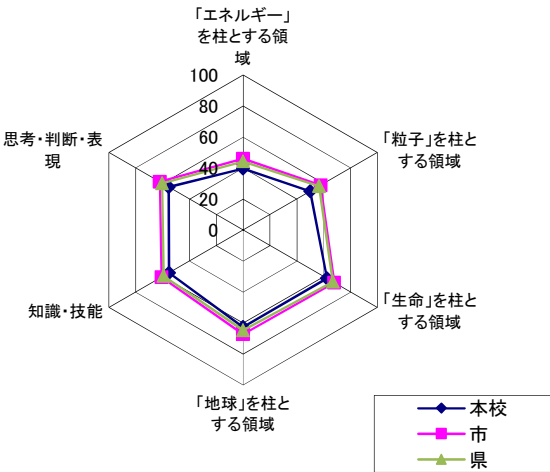
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	平均正答率は、市・県の平均値より下回る。 ○「複数の数直線上に表した分数の大きさを選ぶ」問題の正答率は、全ての問題の中で一番高かった。 ●「小数の大きさについて説明する」問題の正答率は、市より22.8ポイント、県より24.6ポイントと大きく下回っている。また、「除法の性質を利用した計算のくふうについて説明する問題の正答率は、市より10.1ポイント、県より9.7ポイントと、それぞれ下回っている。	・掲示物などを活用しながら、位の位置を一つずつ視覚的に確認することで、問題に取り組めるようにする。 ・問題演習後の解説の際に、一つ一つの解法の手順を確認したり、言葉でのやり取りを交えたりしながら取り組めるような授業展開を図っていく。 ・知識、技能に個人差が大きいので、個に応じた支援を行い、定着を図っていく。
図形	平均正答率は、県・市の平均値より下回る。 ○立体の展開図について理解しているかどうかをみる問題の正答率は、県より0.3ポイント上回っている。 ●「面積の求め方について示させた求め方をもとに正しい式を選ぶ」問題の正答率は、市より10.3ポイント、県より10ポイント下回っている。また、立体の辺と面の位置関係を理解しているかをみる問題では、市の正答率より13.5ポイント、県より10.1ポイント下回っている。	・日常生活の中で図形を見出したり、図形と図形を関連付けたりして、図形のもつ特徴や性質に関心をもてるような活動を多く取り入れる。 ・作図については、図形の定義や性質をもとに正しく理解できるよう、ドリルやプリントを使って繰り返し指導する。
変化と関係	平均正答率は、市・県の平均値より下回る。 ○表を横に見て、使用した棒の本数がいくつ増えているかを答える問題の正答率は、約70%と高かった。 ●比べ方について、差を用いる場面と割合を用いる場面について説明する問題では、市より14.5ポイント、県より12.2ポイント下回っている。	・表から情報を読み取ったり、表したりする活動を多く取り入れることで理解を深め、数量の関係を捉える力を身に付けられるようにする。 ・文章問題への苦手意識を減らし、意欲的に取り組むために他教科においても文章問題を解く機会を設けて、内容を正しく把握する力を身に付けられるよう繰り返し指導する。
データの活用	平均正答率は、市・県の平均値より下回る。 ○折れ線グラフと棒グラフの複合グラフから傾向を読み取る問題の正答率は、市・県どちらも同程度である。 ●グラフから読み取った数を示し、変化の様子を説明する問題の正答率は、全ての問題の中で最も正答率が低かった。	・他教科においてもグラフや表を読み取る時間を確保し、設問の中身を正確に捉える力を養っていく。 ・記述式の設問での無解答率が高いため、自分の考えを友達に伝えたり、文章にして表現したりする活動に力を入れていき、理由や根拠を示しながら説明できる力を身に付けられるようにする。

宇都宮市立五代小学校 第5学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	「エネルギー」を柱とする領域	39.7	46.0	44.3
	「粒子」を柱とする領域	50.0	57.7	56.6
	「生命」を柱とする領域	62.4	67.8	66.9
	「地球」を柱とする領域	62.6	67.2	64.6
観点	知識・技能	55.3	60.8	59.2
	思考・判断・表現	55.5	62.1	60.4



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
「エネルギー」を柱とする領域	平均正答率は、市・県の平均値より下回る。 ●電流が同じ大きさの回路を選ぶ問題の正答率は、市より11ポイント、県より6.7ポイント下回っている。また、簡易検流計の針のふれ方からわかることを答える問題の正答率は、市より7.1ポイント、県より6ポイントと、それぞれ下回っている。	・理科で使う道具の使い方を実験や観察の実践的な場面で、正しく理解できるよう指導する。特に簡易検流計など初めて使う実験道具に関しては、その使い方や何を調べることができるのかをしっかりと指導し、何度も体験させることによって理解を深めて行く。また、実験の結果を表や文章、モデル図などを適切に用いて記録できるよう、授業で支援していく。
「粒子」を柱とする領域	平均正答率は、市・県の平均値より下回る。 ○とじこめた空気の手ごたえの変化について答える問題の正答率は、それぞれ市・県より上回っている。 ●仮説が正しかった場合の実験結果を選ぶ問題の正答率は、市より19.1ポイント、県より21.8ポイント下回っている。また、実験の結果からあわの正体を推測できるかどうかをみる問題の正答率は、市より14.7ポイント、県より13.6ポイントと、それぞれ下回っている。	・授業で学んだことは自分の身近なところでどのように生かされているかを実感できるよう、今後も生活とのつながりを授業の中で指導していく。 ・実験などの体験的な活動を行う前に、事象を捉える、課題を見い出す、課題に対する予想をする、仮説をたて実験方法を考えるといった活動を丁寧に行い、課題解決学習となるようにする。
「生命」を柱とする領域	平均正答率は、市・県の平均値より下回る。 ○季節ごとの動物の活動について理解しているかどうかをみる問題の正答率は、それぞれ市・県より上回っている。 ●骨と関節の名称を答える問題の正答率は、市より7.6ポイント、県より6.3ポイントと、それぞれ下回っている。	・「季節と生き物」の学習において、正しい知識を定着させるため、視聴覚教材などを資料を用いて理解させるなどの工夫を行う。 ・体には曲げられるところと曲げられないところがあることを自分の体や人体模型で調べ、曲げられるところを関節、曲げられないところは骨であることを何度も指導していく。
「地球」を柱とする領域	平均正答率は、市・県の平均値より下回る。 ○星の動きと星座のならび方について理解しているかどうかをみる問題の正答率は、それぞれ市・県より上回っている。 ●蒸発の名称を答える問題の正答率は、市より18.5ポイント、県より18.2ポイント下回っている。また、水蒸気が冷やされることで水になることを答える問題の正答率は、市より9.3ポイント、県より4.8ポイントと、それぞれ下回っている。	・「水のすがた」の物質の気体、液体、個体の特徴が目で見確認できるように、日常生活に結び付けた実験を工夫し、実感が伴う理解につながるような授業の改善を図っていく。また、実験の考察やまとめの際、事象の変化などを理科的な用語を用いて文章で表したり、他者に説明したりする機会を増やし、理由を明らかにしながら説明する力を育てる。

宇都宮市立五代小学校 第5学年 児童質問調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

「家で、学校の宿題をしている」の設問に対する肯定的回答率は97.1%であり、また、「家で、自分で計画を立てて勉強をしている」の設問に対する肯定的回答率も65.7%と高い値を示した。家庭学習の定着もさることながら、自己の学力をより向上させるために、自分の興味関心のある課題や取り組むべき課題に率先して取り組むことが効果的である考える児童が多いといえる。

○「毎日、朝食を食べている」の設問に対する肯定的回答率は96.1%であり、また、「早寝、早起きを心掛けている」の設問に対する肯定的回答率は83.4%と、食事・睡眠に関する基本的な生活習慣の大切さを実感し、実践している児童が多いといえる。

○「毎日の生活が充実していると感じている」の設問に対する肯定的回答率は95.1%であり、また、「学習して身に付けたことは、将来の夢や生活の中で役に立つと思う」の設問に対する肯定的回答率も99.0%と、県・市の平均よりも高い値を示した。今後も継続して、学習したことが現在および将来役立つような授業展開の工夫をし、意欲的に取り組ませていきたい。

●家庭での1日の勉強時間については、平日・休日ともに「30分以上1時間未満」と回答する児童の割合が多く、県・市と比べて勉強時間の平均が短いといえる。本校では「家庭学習のきまり」において、学年の発達段階に応じた学習内容や学習時間についての目安が決められているので、再度確認する。また、家庭学習強化週間も設けてはいるが、習慣が身に付いてきた頃に期間が終了してしまうこともあるので、継続した取り組みになるよう適宜指導していく。

●「家で、学校の授業の復習をしている」の設問に対する肯定的回答率は51.8%であり、また、「家で、テストで間違えた問題について勉強している」の設問に対する肯定的回答率も65.7%と低い値を示した。課題やテストが終わってしまったら学習は終了という意識が強く出ているが、新しい学習においても既習内容の積み重ねになることが多いので、復習と予習のバランスを大切にしつつ、既習内容の反復学習に力を入れていきたい。

●「普段、1日当たりどれくらいの時間テレビゲームをしているか」の設問に対して、1時間以上3時間未満と回答する児童が多く、県・市の平均値と比べて、本校ではゲームと向き合う時間が長い児童が多いといえる。学校でもテレビゲームとの向き合い方を指導したり、家庭で連携したりしながら、各家庭でのきまりを決めていく必要がある。

宇都宮市立五代小学校（第4・5学年共通） 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
・基礎基本の知識・技能の確実な習得を目指す。 ・主体的に学習に取り組む、自分の力で課題を解決できる手立ての工夫をする。	・宇都宮モデルを活用し、課題解決にじっくり取り組む活動を取り入れ、一人一人の学習の状況を的確に見取り、適切に指導・支援する。 ・結果の予想や課題解決の仕方や手順など、学習の見通しを立てられるようにする。	・各教科とも、多くの領域で正答率が県・市の平均正答率に近い値を示している。 ・漢字や計算に個人差がみられる。基礎・基本となる知識・技能の定着が不十分な児童も見られる。 ・自分の意見を書いてまとめることに課題が見られる。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
・各教科とも、多くの領域で正答率が、県・市の平均正答率を下回っている。問題解決に必要な粘り強く自力解決しようとする意欲と、基礎基本の確実な習得が必要と考えられる。	・基礎基本、既習内容の定着 ・基本的な学習態度の指導徹底	・朝の学習の時間を活用し、基礎・基本の定着を図る。 ・自分の課題にじっくり取り組む習慣をつけることで、日々の授業で、粘り強く取り組み、達成感・満足感を得られるような経験を積むようにする。